

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【特別支援学校との交流会】	本校では、情緒や知的障害をもつ生徒が在籍している。授業によって、通常学級で授業を受けることがあるが、障害のない生徒の中には、情緒や知的の生徒たちへの接し方や関わり方に戸惑う生徒も少なくはない。特別支援学校との交流会では、本校の生徒が企画した射的やモルックなど手作りで製作し、本校に招いて、特別支援学校の生徒と直接関わる機会を設け、障害への理解を図った。また、障害の有無にかかわらず、誰もがお互いに人権を尊重したり、思いやりの気持ちをもって接したりすることができる態度の育成を目的とした。 成果 特別支援学校の生徒が、簡単で、分かりやすく、かつ楽しめる企画を生徒自身で考え、おもてなしをすることで、相手の立場にたって物事を考えたり、誰に対しても思いやりをもって接したりすることの大切さを感じることができた機会となった。 課題 障害の有無にかかわらず、態度や言葉遣いなど、誰に対しても偏見をもたずに接することをどんな場面でも行動できるよう、継続的な声かけや指導が必要である。
2 実践2 【生命（いのち）の安全教育】	本校では、SNS 等での写真や動画の取り扱い方が不適切で、自他のプライバシーを守れていない事例があった。また、SNS を含め、対人関係の付き合い方に悩みを抱える生徒も多い。思春期に突入し、様々なことに興味関心が高まる中で、相手の気持ちを尊重した意思決定の仕方と、よりよい人間関係を構築しようとする態度を育成する必要があると感じた。そのことを踏まえ、文部科学省の「生命の安全教室」を活用し、本校の養護教諭を中心とし、「性暴力」をテーマにオンライン授業を各クラス実施した。 成果 授業を通して、心や体には一人一人心地よい、または不快と感じる距離感があるという認識を身に付け、相手の気持ちを考える・尊重することの大切さを改めて感じさせることができた。また、SNS が身近にあるからこそ、見えない相手とつながることの危険性や使い方次第で加害者になり得ることを学ぶことができる機会になった。 課題 性暴力について知り、これから加害者や被害者、傍観者にならないために、日頃から自分や相手を尊重する態度を発達段階に応じて身に付ける必要がある。また、SNS の使い方については、家庭と学校が連携しながら、正しい使い方をしっかり身に付け、自分と相手のプライバシーを守ることの大切さなどを自分の行動を振り返りながら考えていけるよう継続的な声かけが必要である。